

The 2nd International Conference on Animal Care in Kobe 2012
第2回神戸アニマルケア国際会議 – ICAC KOBE 2012
「その医療と健康管理」～人と動物の未来の為に

- 記録集 -



りぶ・らぶ・あにまらず 第2回神戸アニマルケア国際会議— ICAC KOBE 2012

《概要》

開催日：2012年2月18日（土）・19日（日）

開催場所：神戸ポートピアホテル（国際会議／レセプション）

テーマ：「その医療と健康管理」～人と動物の未来の為に

目的：この会議は、阪神・淡路大震災15周年を契機に、全ての動物を対象とし、そのより良いケアや生息環境の保全を目指すための情報交換・新技術の創出等を議論することにより、人を含む世界中の動物の福祉を向上させ、以って、我々人間が果たしうる責任を広く社会に示し、幸福な人と動物との共生を更に前進させることを目的とする。

主催：社団法人日本獣医師会／公益社団法人 Knots

共催：社団法人兵庫県獣医師会／公益社団法人神戸市獣医師会



ワークショップ主催団体：人と動物の共通感染症研究会 (WS I) / 公益社団法人日本動物病院福祉協会 (WS II) / 公益社団法人日本動物福祉協会 (WS III) / 日本野生動物医学会 (WS V) / 社団法人日本獣医師会 (WS VI および WS VII) / 社団法人ジャパンケネルクラブ (WS IX)

特別協賛およびワーク： ネスレピュリナ ペットケア
ショップ支援 (WS IV)

ワークショップ支援企業：マース ジャパン リミテッド (WS III および WS IX) / ロイヤルカナン ジャポン (WS II) / DS ファーマアニマルヘルス株式会社 (WS VII 法人サポーター)

特別協力：公立学校法人大阪府立大学獣医学専攻 / 一般社団法人 ペットフード協会

協力：長崎大学熱帯医学研究所 / 日本寄生虫学会 / 日本衛生動物学会 / 日本熱帯医学会 / ちよだニャンとなる会 / アメリカペットフード協会 / NPO 法人野生動物救護獣医師協会 / 優良家庭犬普及協会 / 一般社団法人ペット用品工業会 / 社団法人エゾシカ協会 / 社団法人日本動物園水族館協会 / 一般社団法人 日本障害者乗馬協会 / 兵庫県動物愛護センター / 動物との共生を考える連絡会 / ニホンジカ有効活用研究会 / アニマテックオオシマ / 日本クマネットワーク / 応用動物行動学会 / 日本動物病院会 / 一般社団法人日本 SPF 豚協会 / 緊急災害時動物救援本部

後援：環境省 / 厚生労働省 / 農林水産省 / 文部科学省 / 兵庫県 / 神戸市 / 兵庫県教育委員会 / 神戸市教育委員会 / 神戸市動物愛護協会 / 財団法人日本動物愛護協会 / 公益社団法人日本愛玩動物協会 / 社団法人日本医師会 / 社団法人兵庫県医師会 / 社団法人神戸市医師会 / NPO 法人日本ヒューマン・アニマル・ネイチャー・ボンド・ソサエティ / 駐大阪・神戸アメリカ総領事館 関西アメリカンセンター

2nd Live Love Animals International Conference on Animal Care in Kobe 2012

～ OUTLINE ～



Dates: Saturday 18th & Sunday 19th February, 2012

Venue: Kobe Portopia Hotel (International Conference, Reception)

Theme: Medical Treatment and Health Care - For the Future of People and Other Animals

Method: With the 15th anniversary of the Great Hanshin-Awaji Earthquake in our hearts, this conference wishes to help improve the welfare of animals (including humans) all over the world by showing that our responsibilities extend both far and wide, within and beyond, our society. The conference will achieve this through a broad exchange of expertise and knowledge, and with a format to encourage innovative debate, including evaluation of new techniques and technologies and their implementation.

Organizers: Japan Veterinary Medical Association / PIIA Knots

Joint Organizers: Veterinary Association of Hyogo Prefecture / public-service corporation Kobe City Veterinarian Association

Workshop Organizers : Society for Zoonoses Research (WS I) / Japanese Animal Hospital Association (WS II) / Japan Animal Welfare Society (WS III) / Japan Society of Zoo and Wildlife Medicine (WS V) / Japan Veterinary Medical Association (WS VI & VII) / Japan Kennel Club (WS IX)

Main Sponsor and :  Nestlé PURINA
Workshop Support (WS IV)

Workshop Supporting : Mars Japan Limited (WS III & WS IX) / Royal Canin Japon (WS II) / DS Pharma Animal Health Company Co., Ltd. (WS VII Corporate Supporter)

Special Cooperation: Department of Veterinary Science, Osaka Prefecture University / Japan Pet Food Association

Cooperation: Institute of Tropical Medicine Nagasaki University / Japanese Society of Parasitology / The Japan Society of Medical Entomology and Zoology / Japanese Society of Tropical Medicine / Chiyoda Nyantonaru-kai / Pet Food Institute (America) / Wild Life Rescue Veterinarian Association / Japan Association for the Promotion of Canine Good Citizens / Japan Pet Products Manufacturers Association / Yezo Deer Association / Japanese Association of Zoos and Aquariums / Japan Riding Association for the Disabled / Hyogo Prefecture Animal Wellbeing Center / Japanese Coalition for Animal Welfare / Hyogo Sika Deer Sustainable Use Working Group / AnimaTec OHSHIMA / Japan Bear Network / Japanese Society for Applied Animal Behaviour / Nippon Animal Hospital Association / Japan SPF Swine Association / Headquarters for the Relief of Animals in Emergencies

Support: Ministry of the Environment / Ministry of Health, Labour and Welfare / Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries / Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology / Hyogo Prefecture / Kobe City / Hyogo Prefecture Board of Education / Kobe City Board of Education / Kobe Society for the Prevention of Cruelty to Animals / Japan Society for the Prevention of Cruelty to Animals / Japan Pet Care Association / Japan Medical Association / Hyogo Prefecture Medical Association / Kobe City Medical Association / NPO Japan Human Animal Nature Bond Society / The Kansai American Center of the American Consulate General Osaka-Kobe

りぶ・らぶ・あにまらず 第2回神戸アニマルケア国際会議－ ICAC KOBE 2012

《プログラム》

2月18日(土)	偕楽の間
10:30～12:30	基調講演『感染症はいかに制御できるのか』片峰茂氏(長崎大学学長)
18:00～20:00	レセプション

	和 楽	北野 ※同時通訳有	生 田
2月18日(土) 13:30～16:30	ワークショップ I 『日常生活でペットからうつる人と動物の共通感染症』	ワークショップ II 『人と動物の絆 Human Animal Bond タイガープレイスと日本における代表的なアニマルセラピーの活動発表』	ワークショップ III 『東日本大震災から学ぶ今後の緊急災害時の動物救護～法的裏づけの必要性と平時からの準備』
2月19日(日) 10:00～13:00	ワークショップ VI 『東日本大震災における被災動物対応の現状と今後の課題－放射性物質汚染への対応を考える－』	ワークショップ V 『One World, One Health』	ワークショップ IV 『ずっと一緒に居ようよ～飼い主とペットの「日常」を護る為に～』
14:00～17:00	ワークショップ VII 『多様な対応が求められる動物医療』	ワークショップ VIII 『食の安全を考える』	ワークショップ IX 『犬との共生』
17:00～17:30	閉会式	—	—

2nd Live Love Animals International Conference on Animal Care in Kobe 2012

～ PROGRAM ～

Saturday 18th February	Kairaku Room
10:30～12:30	Opening Ceremony / Keynote Speech by Shigeru KATAMINE, President of Nagasaki University
18:00～20:00	Reception Party

	Waraku Room	Kitano Room *simultaneous translation	Ikuta Room
Saturday 18th February 13:30～16:30	Workshop I "Zoonoses: Diseases that Transfer between Pets and Humans in Daily Life"	Workshop II "Human Animal Bond Lecture Workshop: Tiger Place and Representative Animal Therapy Activities in Japan"	Workshop III "Lessons from the Great East Japan Earthquake for Future Animal Rescue Operations in Times of Emergency ~ Necessity for Legal Backing and Preparations in Normal Times"
Sunday 19th February 10:00～13:00	Workshop VI "The Current Situation Concerning the Handling of Animals Affected by the Great East Japan Earthquake - Considering Responses to Radioactive Material Contamination"	Workshop V "One World, One Health"	Workshop IV "Always Be Together: Protecting the Normality of Daily Life for Owners and Pets"
14:00～17:00	Workshop VII "Coping with Increasing Diversity in the Medical Treatment of Animals"	Workshop VIII "Food Safety"	Workshop IX "A Good Relationship with Dogs"
17:00～17:30	Closing Ceremony		

開会式



○富永（総合司会）

『第2回神戸アニマルケア国際会議2012「その医療と健康管理」—人と動物の未来のために』を開催いたします。

（ビデオ上映）

これはミスではございません。これは第1回に流しましたオープニングビデオでございます。このような初心を忘れないようにということで、前回の会議のオープニングビデオを御用意ご用意させていただいたんですけども、このようなりアリティを持ってこのビデオを振り返ることになるうとは思ってもみませんでした。また、今回放射能のことも話題となりまして、た。私は長崎の出身で両親は被爆者でございます。心は穏やかではございませんでした。そして、2009年の会議で参加を希望されておられ、命を奪われた1人の女子学生がいました。彼女のことも私たちは忘れていません。旅立たなければならなかったすべての命に対して黙祷の御協力をお願いします。黙祷。

ありがとうございました。

本会議は社団法人日本獣医師会、公益社団法人 Knots の共同主催、共催といたしまして社団法人兵庫県獣医師会、公益社団法人神戸市獣医師会、以上4社の共催として開催させていただきますとなっております。

主催者を代表いたしまして、社団法人日本獣医師会

会長 山根義久よりごあいさつ申し上げます。

山根先生、よろしく願いいたします。

○山根義久

おはようございます。紹介にあずかりました、日本獣医師会の山根義久でございます。第2回の神戸アニマルケア国際会議を開催するにあたりまして、主催者の1人として皆様にお礼のあいさつを述べさせていただきたいと思っております。

また、きょうこの会議が開かれるまで並々ならぬ努力を重ねられ、本日を迎えることができましたのは、先ほど司会なさっておられます公益社団法人の Knots の理事長であります富永さんを初め、関係各位の御努力によるものでございます。厚く御礼を申し上げますとともに敬意を表する次第であります。

また、遠いアメリカのミズーリから20時間も掛けましてやってこられました、IAHAIO会長でありますレベッカ先生等も見えておられます。恐らくや、この2日間意義ある国際会議になるのではないかなど、大きな期待をしているところでございます。

御存じのように、この数年動物たちは大変な経験したわけでございます。一昨年の4月20日公表されました宮崎県の口蹄疫におきましては、最終的には牛豚を初め、スイギュウ、シカ、ヤギ、羊等々、28万8,643頭という膨大な数が犠牲になりました。また、その秋

から流行しました、これは北海道から九州まで9県24カ所にわたりまして発生したH5N1の高病原性鳥インフルエンザにおきましては、185万羽という膨大な数の鶏が犠牲になっております。

さらに、ことしの3月11日午後2時46分、私も和岡でこの震度6強の地震に遭遇いたしまして、2日間の避難所生活を強いられました。今でも鮮明にそのときのことが浮かび上がってくるわけですが、これにおきましては、御存じのように福島第一原発が続いて発生したわけでございます。この惨事によりましては、数がわからないほどの家畜とか伴侶動物である犬や猫、さらに野生動物が犠牲になったわけでありまして。それは今でも、その苦しみは続いているわけでありまして。もうちょうど1年に少しでなろうとしているわけですが、そういうことを考えますときに、17年前にこの神戸の地を中心とした、阪神・淡路大震災が起こった地で、このような国際会議が開催されることは、まことに意義あるものであると私は思うわけでありまして。

「最悪の事故が起こるまで、人は何をしていたのか」という本が出ました。チャイルズという先生が書かれた本でございます。高橋健次さんという方が翻訳なさり、草思社から出た本だと思います。その一節の中に、「起こるはずはないと思いたい災難の多くは起こり得ないのではなく、起こるまでに時間がかかるだけである」という一説がございます。まことに私も同感でございます。

今、東京では、1年ほど前は、30年のうちに相当な激しい、強い地震がやってくる確率は3割だと言っております。ところが、最近の東大の地震研から発表されたデータ見ますと、4年のうちに大地震が来る確率は70%だと言われております。来れば確かに100%、来なければ0%、これが統計学の摩訶不思議なところでございます。何ゆえ70%が意味があるかという気もいたしますけれども、ひょっとしたならば5年先になるかもわからない。10年先になるかもわからない。そのためには、やはり我々は危機意識を持たなければならぬのではないかなと思うわけでありまして。東京に地震が来ることは間違いないと私も思います。ただ、起こるまでに時間がかかるだけであるという言葉が非常に重くのしかかるわけでありまして。

今回の地震では、私は、日本国はもう少し成熟した国家であり、動物の愛護と福祉の意識の高揚が達成できた文明国家であると、かたく信じていたわけですが、どうもその様な状況にないことは間違いなさ

そうです。此度、政治も行政も経済界もいろいろな方々とお話し、いろんな要請をし、本当にどれだけスピードをもって目標に向かっていくのかと言いますと、ノーと言わざるを得ないということでありまして。私も人間の命がまず第一だということは十分承知の上であります。だからといって、家畜や伴侶動物をそのまま放置していい理由にはならないということでありまして。そのために環境省があり、農林水産省があり、厚生労働省があるわけでありましてから、それなりの対応をしてほしかった。ところが、すべてがべたべたにおくれてるわけでありまして。

ようやく去年の暮れになりましてから、20キロ圏内の危険警戒区域で、家畜を研究用として飼育してもよろしいというところまではこぎつけました。そして、国はそれに対する予算を渋っておりましたが、その予算もつけていただきました。この3月には、内部被爆と外部被爆の相関性が出てくるものと思っております。帰りましたならば東北に行きまして、そのデータを少し私も検討させていただきたいと思っております。ありますけれども、これは南相馬の桜井市長初め、農林省、関係各位の御努力によって達成できたものであります。

そのときの条件といたしまして、我々獣医師、国民は動物をむやみに殺すのが仕事ではないということでありまして。助けるものがあるならば、できたら助けてやりたい。20キロ圏内から出しても大丈夫だよというデータが出るならば、相関性が、即座に今確保している牧場にシフトさせようと思っておるわけでありまして。そして、それが可能になるならば、安楽死するばかりでなくて、繁殖に使えるものは繁殖牛として使ってやってほしい、繁殖豚として使ってあげてほしい。そして、本来の目的である肉用牛は肉になるわけでございますが、肉に供するものがあるならば供してやってほしいと、そういう約束のもとにこの研究はスタートしたわけでありまして。どういう結果が出るか、私はまだまだ確信はございませんが、今のデータではかなり興味あるデータが出ています。



これは世界的にも、ロシアのチェルノブイリでも、アメリカのスリーマイル島の原発事故でもこういうデータは全くありませんので、非常に貴重なデータになるのではないかなと私は理解しておるところです。

きょう、これから基調講演がありますが、私もきょう1日はしっかりと勉強させていただいて、これから日本獣医師会といたしましても皆様の御理解、それから御協力のもと、この日本に動物の愛護と福祉の精神の高揚をしっかりと図りたいと思っておるわけでございます。どうか、きょうとあす2日間が実りある国際会議になりますことを祈念いたしまして、あいさつにかえさせていただきます。誠にありがとうございます。

○富永（総合司会）

山根先生、ありがとうございます。

引き続きまして、私どもこの会議におきましては、たくさんの方々に御支援をお願いしております。そして、それにお答えお応えくださった下さり、そしてまた、いつも私ども Knots の神戸での活動を支えていただいておりますのは、特別協賛のネスレ日本株式会社ネスレピュリナペットケア様でございます。

そして、また、ワークショップの支援企業といたしまして、ワークショップⅢ及びⅨを御支援くださいました下さいましたマースジャパンリミテッド様、そしてワークショップⅡを御支援くださいました下さいましたロイヤルカナン様、法人サポーターとしてワークショップⅦを御支援くださいました下さいましたDSファーマーアニマルヘルス株式会社様、そして個人のサポーターとして山内ヨウノサトウ様、柴内裕子様、これらの皆様に御支援を賜り、この会議を開催することができました。改めまして御礼申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

御来賓といたしまして致しまして、特別協賛をしてください下さいましたネスレ日本株式会社ネスレピュリナペットケアカンパニープレジデントの村林三七男様より一言ごあいさつ挨拶を賜ります。

村林様、よろしくお願いたします。

○村林三七男

皆様、こんにちは。高い席からではございますが、一言ごあいさつ申し上げたいと思います。

きょう、第2回の神戸アニマルケア国際会議2012が、無事、このように盛大に開催されましたことをお喜び申し上げます。また、社団法人日本獣医師会様、公益社団法人 Knots 様、大変なここに至るまでの御尽力だったと思います。改めてお喜び申し上げます。



さて、私どもネスレピュリナペットケアという会社は、実は神戸にございますネスレ日本という会社のペットフードの事業を担当しております。世界の本社はスイスにございます。今から140年ぐらい前にスイスのルマン湖のほとりにある一風変わった、だけど非常に優しいアンリネスレという青年がいたんですね。彼は薬剤師だったんです。当時飢饉で苦しむ子供たち、産後の肥立ちが悪くて亡くなっていく子供たちの死亡率を何とか下げたいということで、彼が一生懸命長く研究して乳児用シリアルというのを開発しました。

その後、そのシリアルをつくる加工技術が、ブラジル政府から非常に豊作で採れたコーヒー豆を捨てることになるので、加工技術でインスタントコーヒーがつかれないかということでインスタントコーヒーに至るわけです。アンリネスレが経営理念としてました、人も動物も生き物はすべて一緒じゃないかという理念のもとに、私どもは Good food、Good life ということで企業スローガンを立てております。その中で、NHWという言葉が私どもの活動の指針になっておまして、Nは Nutrition です、Hは Health です、Wは Wellness。要するに栄養と健康を通して快適な生活を営もうというのが企業スローガンで、これは私どもペットも同じだということです。私どもも神戸に本社があることで、阪神・淡路大震災では本社も崩壊し、多くの社員も苦しんだんですね。

その後、Knots 様が人と動物のきずな、人と動物の共生ということを理念に立ち上げられたことに、私どもも経営理念が合致するというので古くからおつきいをさせていただいております。第1回の国際会議では人と動物の健康と食事、または現代病であります糖尿病とか肥満、これを通して人と動物の腸の健康と免疫、こういうことに関してワークショップをさせていただきました。

今回非常に私を感じたのは、東日本大震災に際してある南アフリカの人から電話がかかってきたんですね。最初だれかわからなかったんです。震災直後だったん

ですね。「日本は大丈夫なのか、ペットはどうしてるんだ」という電話がありました。私、余り英語がわからないので、何を言ってるんだ、ペットコーヒー飲みたいのかなとか思ってたわけです。どうもこれはペットフードのことじゃなくて、ペットそのもののことだということに気がつきまして。そうすると、タイからもマレーシアからもいろんなペットの仲間たちが、どうしたら支援をできるんだということの問い合わせがどんどん電話がかかってくるわけですね。

そういう中から多くの支援団体、もしくは関係団体が手を組んで動物緊急対策本部を立ち上げました。そこに、少しでもいいから支援をしたいという世界のペットの仲間たちが大勢支援をしてくれました。ふだん私どもはKnotsさんを通してわんわんフェスタだとか、りぶらぶの運動会だとか、そういうことには支援をさせていただいてるんですが、そういう日本の活動を知ってか知らずか、どういう団体にどういう寄附をしたらいんだという、このペットに携わってる人たちのきずなの強さが非常に大きなもので、これは日本だけで支援するものじゃなくて、世界各地でこの支援の声がかき上がってるんだなということに大きな感銘を受けました。

きょう、富永さんのほうから協賛メーカーという御紹介がありましたが、私どもは決して協賛メーカーというふうには考えておりません。このペットに携わる人たち、社会がみんな1チームになって社会に大きく貢献していこうという活動の一つの歯車として、私どもがさせていただける活動は何かということを考えて、こういうことしかできないんじゃないかって、むしろ恥ずかしい次第とっております。今後とも第3回、4回とこの国際会議が盛大に取り開かれるように祈念いたしまして、簡単ではございますが、「がんばれ、Knots、がんばれ、ペット、がんばれ、社会」という気持ちでこれからも活動させていただければと願っております。ありがとうございました。

○富永

村林様、本当にありがとうございます。いつも温かいお言葉を本当にありがとうございます。

それでは引き続きまして、この会議ですが、たくさんの方に御協力もいただいております。特別協力といたしまして致しまして、公立大学法人大阪府立大学獣医学専攻、そして同じく特別協力一般社団法人ペットフード協会。そして協力団体といたしまして致しまして、長崎大学熱帯医学研究所、日本寄生虫学会、日本衛生動物学会、日本熱帯医学会、ちよだニャンとなる会、

アメリカペットフード協会、NPO法人野生動物救護獣医師協会、優良家庭犬普及協会、一般社団法人日本ペット用品工業会、社団法人エゾシカ協会、社団法人日本動物園水族館協会、日本障害者乗馬協会、兵庫県動物愛護センター、動物との共生を考える連絡会、ニホンジカ有効活用研究会、アニマテックオオシマ、日本クマネットワーク、応用動物行動学会、日本動物病院会、一般社団法人日本SPF豚協会、緊急災害時動物救援本部。

御後援といたしまして、環境省、厚生労働省、農林水産省、文部科学省、兵庫県、神戸市、兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、神戸市動物愛護協会、財団法人日本動物愛護協会、公益社団法人日本愛玩動物協会、社団法人日本医師会、社団法人兵庫県医師会、社団法人神戸市医師会、NPO法人日本ヒューマン・アニマル・ネイチャー・ボンド・ソサイエティー、駐大阪・神戸アメリカ総領事館関西アメリカンセンター。

このように、たくさんの方々に応援をいただいている会議でございます。その応援団の代表といたしまして、一般社団法人ペットフード協会会長の越村義雄様に御来賓としてごあいさつご挨拶を賜りたいと思っております。越村様、どうぞよろしくお願いたします。

○越村義雄

ただいま御紹介いただきました、一般社団法人ペットフード協会の越村でございます。まずは第2回神戸アニマルケア国際会議2012の開催、まことにめでとうございます。

また、主催者であります社団法人日本獣医師会様、並びに公益社団法人Knots様には、この国際会議の御成功を心から祈念申し上げる次第でございます。また、ことしの会議の副題といたしまして、「医療と健康管理～人と動物の未来のために」ということとでございます。動物の医療と健康管理は言うまでもございませんが、動物によりまして、私どもは大変すばらしい心と体の健康を人間は手にするわけでございます。

例えば、これは古いデータにはなりますけれども、



ドイツにおきましては人と動物が共生することによりまして、年間の医療費の削減効果が7,500億円と言われております。また、オーストラリアでは3,000億円の削減効果があったという報告がございました。御存じのように、日本は医療費が今現在40兆円でございます。毎年1兆円ずつふえているとそんな状況でございます。私は、ぜひ政府には人と動物の共生について少し焦点を当てていただいてもいいのではないかなど考えておる次第でございます。

ことは、皆様御存じのように動物愛護管理法の改正の年でございます。私は今回の東日本大震災で亡くなられた方々、あるいは行方不明の方々、人間の場合には、毎日新聞の報道にもございますように、きちっとしたデータが報告をされておりますが、残念ながら人間と一緒に生活している動物であるにもかかわらず、その被災動物の数の把握が全く正確な数字が発表されていないのが実情でございます。私はペットを迎え入れたとき、あるいは、またペットが亡くなったときには、人間同様、報告義務を課すような、私はペットにも戸籍をつくるべきではないかということを経済省にも最近申し上げております。

そうすることによりまして、今現在、殺処分数が一時は120万頭ほどありました数が、現在は23万頭に減ってはおりますけれども、その関連経費が何と50億円かかっているということでございます。このペットの戸籍が何らかの形できちっとできると、私はこの殺処分も激減すると信じておる次第でございます。

実は、私どもペットフード協会では、人と動物の共生のすばらしさについて、皆様のほうにもきょう受付でお配りをさせていただいたかとは思いますが、本日こちらにいらっやっておられます、先ほどごあいさついただきましたネスレさん、あるいはマースさん、ロイヤルカナンさん含めて、私ども協会会員社の協力で、この笑顔あふれるペットとの幸せな暮らしという小冊子、またポスターを作成いたしまして、いろんな場で配付をさせていただきました。

去年は私どもペットフード協会が幕張で行いました、3万9,000人ほどお集まりいただきまして、ペットの本格的な国際見本市を開催をさせていただいたわけですが、その会場でも、本日、御登壇いただきました山根会長初め、前のほうに座ってらっしゃいます柴内先生ほか、いろんな本日お集まりいただいている先生方にもいろんなシンポジウムでお話をちょうだいしまして、人とペットの共生のすばらしさ、これをいろんなメディアを通じて発進をさせていただきました。

私どもは、今後もこういった活動に力を入れてまいりたいと思う次第でございますが、昨年11月にペットフード・ペットマナー検定、こちらはインターネットによる試験をスタートさせました。その中には、ペットフードの基礎知識もさることながら、人間が動物に対してどのような責任を持ってケアしたらいいのか、あるいはまた動物が人に与えてくれる効用、そういったものを盛り込んだテキストになっておりまして、現在インターネットで気軽に試験を受けられるということでございます。

私どもは阪神・淡路大震災、また昨年発生いたしました東日本大震災では、ペットフード協会として会員者の御協力のもとペットフードを提供させていただいております。去年は、私どもの協会の調査では1万2,900頭が被災したという調査が昨年未出ました。私どもは約1万3,000頭に1年間給与できる296トンのペットフードを、緊急災害時動物救援本部を通じまして、特に日本獣医師会様、あるいは動物愛護協会様を通じて今でも提供をさせていただいておりますが、このペットフードの支援につきましては、今後も継続してまいらねばならないと考えている次第でございます。

人とペットの未来のためにという副題でございますが、私どもペットフード協会としましても、この趣旨に沿うような形の協力を今後とも継続をさせて、協力をさせていただこうと思っております。

ぜひ、この神戸アニマルケア国際会議がこの2日間にわたって成功裏に開催され、広く国民の皆様にと動物の共生の重要性が浸透されることを祈念申し上げ、私のあいさつとさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

○富永

ありがとうございました。越村様、本当にありがとうございます。

引き続きまして、アドバイザーの先生方の御紹介をさせていただきたいと思っております。本会議は構成するにあたり、高い見識のある皆様へアドバイザーをお願いいたして致しております。

四条暁学園大学教授でいらっやいます、植村 興先生です。

○植村 興

植村でございます。動物の幸せのために、この2日間科学的に熱く、そして楽しい会議につくり上げていただきたいと思います。

○富永

ありがとうございます。続きまして、柴内裕

子先生です。公益社団法人日本動物病院福祉協会顧問、赤坂動物病院院長でいらっしゃいます柴内先生です。

どうぞよろしくお願いいたします。

引き続きまして、社団法人和歌山県獣医師会会長でいらっしゃいます、玉井公宏先生です。

○玉井公宏

玉井でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○富永

ペット研究会「互」を主催されておられます、山崎恵子先生です。

○山崎恵子

山崎です。よろしくお願いいたします。

○富永

社団法人日本動物福祉協会獣医師調査員でいらっしゃいます、山口千津子先生です。

○山口千津子

よろしくお願いいたします。

○富永

この五人のアドバイザーの先生のアドバイスを受けながら、この会議を構成させていただいております。

皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、この会議のキャラクター達の紹介も一応しておきたいと思います。この会議はお互いの存在に感謝すること、そして生きている限りは、命のある限りは幸せであることが命に対する責任だというふうに考えて構成であるということで構成をいたして致しております。そして、先ほどからお話申し上げているとおり、神戸はある種の役割を負ったまち街であるということから、この神戸のまち街から情報発信をしていこうということで、これらの二つのキャラクターが存在しているんです。アクア (Akua) とプカ・コモ (puka komo)、こちらが神と扉、何と言いましたら、わかる方はおわかりになると思います。神と扉で神戸です。2人合わせて神戸ですね、関西でしかあり得ないネーミングでございました。この会議のキーワードを示す5匹のキャラクターたちと一緒に会議を楽しく過ごさせていただければ頂ければと思います。

それでは皆様大変長らくお待たせをいたしました、基調講演に入りたいと思います。

長崎大学学長片峰茂先生、「感染症はいかに制御できるのか」、成人T細胞白血病 (A T L) 制御の事例をもとに御講演をいただきたい頂きたいと思います。

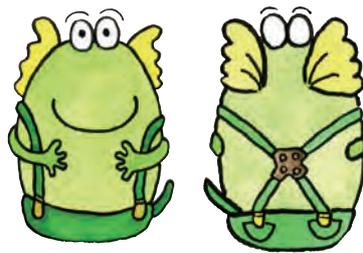
私が長崎大学の出身であるという、この1点だけで無理無理にお越しをいただきまして頂きまして、その上

に英語で御講演をなさるにもかかわらず、聴衆は日本人が多いのでということで、スライドは日本語で作成いただきました頂きました。研究者の皆様は何というむちゃ無茶な、ということをよくおわかりになっていただける頂けるかと思いますが、卒業生のわがまま我が儘をどこまでも聞いてくださる優しい学長です。そして、研究者として果たすべき役割を常に淡々と担われているそのお姿に、私はいつも感銘を受けております。私が皆様に差し上げることのできる最大にして最高のプレゼントと思っていただきたい頂きたいと思えます。

皆さん、どうぞお聞きください。片峰 茂学長の基調講演です。

生ある限りは「幸せ」で…

We should feel 'happy' for all the other creatures that live



幸せ (ハウオリ)
Hau'oli (Happiness)